

大規模酪農場で実施した意識向上を目的とした
出前勉強会の成果

京都府中丹家畜保健衛生所
○森 一憲 田中優子 岩間小松

【はじめに】管内大規模酪農場において、家畜衛生指導の一環として、経験の浅い経営者、従業員に対する飼養管理意識の向上を目的とした出前勉強会を実施し、その成果について検討した。

【実施内容】農場の意向や現状の課題を踏まえ、1年間を通じ、9回の勉強会を実施した。①搾乳衛生②堆肥作り③子牛管理④乳房炎⑤周産期病⑥搾乳衛生Ⅱ⑦繁殖⑧HACCP⑨カウコンフォート。

勉強会終了後には、アンケート調査を行うとともに、勉強会前後の農場成績の調査を行った。

【成果】アンケート結果から、勉強会后「前搾りの実施」「搾乳時の手洗いバケツの設置」「PLテスターの使用」が新たに実施され、「遠くの発情牛も面倒がらず確認をするようになった」「記帳するようになった」「話し合う大切さを知った」等の意識の変化が現れた。また、「低Ca血症の発生減少」「乳房炎の早期発見」等が効果として現れた。農場成績は、昨年同時期（9～11月）の成績と比較して、搾乳牛1日1頭あたりの乳量が約12%増加した。治療回数は25%、特に低Ca血症は約30%減少した。

【まとめ】今回の取り組みを通して、全員が日常管理の注意点や知識を共有することで、共通の問題解決意識が生まれ、農場の管理能力が向上したと考えられた。